



# 浦島伝説

## 草むしりのできる子

1月24日、春の選抜高校野球出場校が決定しました。注目は、27年ぶりに春の甲子園出場を果たした池田高校（徳島県）。かつて、篤文也監督時代（1952～1992年）には、全国大会で優勝3回、準優勝2回。「さわやかイレブン」「やまびこ打線」と、高校野球の歴史に燦然と輝く黄金時代を築き上げました。野球よりも人間育成に重点を置いた篤監督の指導は、わかりやすく、参考になることが数多くありました。

- ◆ 負けることは不名誉なことではない。負けることによって人間がダメになったり、やる気がなくなるなら、その方が不名誉だ。失敗したらそれを踏み台にしてまた出直せばいい。
- ◆ 技術だけでは勝てない。精神力がなければ大切な場面で踏ん張ることができない。人生も同じだ。精神を鍛えてないと、勝利の喜びを味わえないまま、一生を終えることになりかねない。
- ◆ 「する勇氣」と「しない勇氣」を持て。野球にもルールがあるように、学校や社会にもルールがある。それらを守ったうえで「する勇氣」を大いに発揮せよ。

また、篤監督は書籍も出版され、そこには、次のような文章も載っています。

高校野球のチームは、リーダーさえしっかりしていればある程度のところまでいく。監督がゴチャゴチャ言わなくても、リーダーを中心に、生徒たちが何でも自主的にやるようになる。生徒たちを管理せず、のびのびとやらせるためにも、リーダーの人選は大事だと考えている。

では、そのリーダーをどう選ぶか。それは、草むしりをさせて決めるのである。野球部に入ってくる子なら誰でも野球の練習は熱心にやる。しかし、野球とは直接関係のない草むしりとなると、ガラッと性格が丸だしになってくる。一生懸命草むしりをする子とそうでない子がいる。こういう雑用にも力を入れてやる子は、どんな苦しい練習でも辛抱できる子だ。野球の基本とはつまらないことの積み重ねだが、草むしりにも力を入れる子はやはり野球でもよく伸びる。（中略）

しつけができていない子に野球をやらせても、ロクなことにはならない。勉強だって同じだ。勉強だけできても、それ以外のことは何一つできない子ははっきり言って鈍感だ。だから、学生時代はよくても、社会に出た時、本人が苦勞する。たとえば、墓参りに行った時、言われなくても進んで草むしりをするような子なら、周囲の人から認められる人間になることは間違いない。

3学期始業式で、校長先生から清掃に全力で取り組もうという呼びかけがあり、先生方もそれを意識して指導しています。清掃場所に行くこと【レベル1】から始まり、無言清掃ができる【レベル5】までに成長できるようがんばってみてください。「学習やスポーツができる子」もいいですが、「草むしりのできる子」（「清掃ができる子」）であってほしいと思います。

**凧あげをしました** 須田保育所の所長さんから、子どもたちが凧を作ったので運動場で上げさせてほしいとの申し出がありました。ちょうど私立高校入試日と重なり、3年生の多くがいないために通常の授業ができないことから、3・4組の体育の授業で、一緒に凧あげをすることにしました。9月に合同地震・津波避難訓練を行って以来の再会で、保育所の子どもたちはとても喜んでいました。でも、それより楽しそうだったのは中学生の方でした。

